

参考資料 8-1 基本チェックリストの活用法

基本チェックリストには、うつに関する5項目が含まれています。最近2週間以上続いている場合には、「はい」、続いていない場合には「いいえ」として回答してもらいます。そして、「はい」が2項目以上ある場合には、介入対象者として抽出し、二次アセスメントを行います。

保健師等が直接、対面で聞き取りを行うことができる場合には、以下のことに留意します。

- ① 受診者の「表情や話し方、受け答え方、声の調子等」を観察します。
- ② 表情が暗い、視線が合いにくい、受け答えが鈍い、服装に乱れがある等、保健師（看護師）の勘を大切にしましょう。
- ③ 「最近のあなたの様子」というのは、「最近の2週間」を意味します。受診者の中には、「ここ数年」の様子について回答している住民もいますので注意しましょう。また、2週間のうちに一度でもこれらの症状があるかどうかではなく、2週間以上これらの症状が続いている場合にチェックします。
- ④ 「設問24 自分が役に立つ人間だと思えない」の設問に不快感を示される高齢者がいらっしゃいます。そうした方には、この設問項目がうつのスクリーニングを目的としたものであることや、うつになるとこのように思いこんでしまいやすいので質問しているということなどを丁寧に説明してください。
- ⑤ 高齢者の場合、「設問25 わけもなく疲れたような感じがする」の設問に「はい」と答えがちです。その疲れは最近の様子であるのか、加齢のためかよく確認しましょう。
- ⑥ はっきりした回答が得られない場合には、明確な回答が得られるまで質問のニュアンスが伝わるように追加で質問したり、表現をいいかえたりして構いません。
- ⑦ 受診者が家族の介護をしている、最近家族が死亡した、更年期障害の症状を訴えている等があれば陽性の確率が高く、事前にわかっているときには丁寧な聞き取りが必要です。
- ⑧ 陽性者の場合、「簡単な問診の結果、〇〇さんは少し精神的に疲れているようです。もう少し詳しくお話をお聞きしたいのですが、お時間を取っていただけませんか？」等と説明し、健診終了後に会場で面接するか、あるいは市町村担当者に連絡して後日家庭訪問させてもらう約束をする等の留意が必要です。